

大人が絵本を 第83回 紙上



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事フアウンダー

ありがとう エリック・カールさん

色彩の魔術師エリック・カール氏へ、心から感謝と御礼を申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

2021年1月も半ばになって、安野光雅氏が年末に逝去していたという訃報が届くと落胆する心を隠せず、当館ビブリオキッズでは安野光雅さん追悼コーナーを設置しました。それはカール氏の訃報が届く5月末まで、4か月以上展開したのです。安野氏94歳でした。

かこさとし氏が2018年に92歳で逝去したときも、2016年の太田大八氏97歳での訃報も、2013年やなせたかし氏94歳での永眠にも、作者と著作物への深い敬意から、絵本と子どもたち・大人たちとの架け橋役である私たち司書は、読者の笑顔や親子の至福の表情を思いながら、ご冥福をお祈りしてきました。

もちろん私自身が、作家諸氏の作品に心を揺さぶられ、感性の深奥に刺激を受けて、あるときは癒され、またあるときは示唆を得て、たくさんの学びを受けてきた御礼もあります。最後まで作品を創作し続けた偉大なる作家諸氏の大往生の年齢を並べたとき、カール氏にいつかは訪れるその日を覚えてしまい、ドキドキしていた人は私だけではないでしょう。

それはカール氏90歳の2019年11月に、自身の作品に関する知的財産権をアメリカの出版大手ペンギン・ランダムハウスに売却するというニュースに起因するのです¹⁾。

そして、生ある者に訪れる終焉の日を、世界的大家エリック・カール氏も等しく迎えたのでした。

エリック・カール氏デビュー作は…

2021年5月23日に、ご自身のスタジオで家族に見守られながら亡くなったカール氏は、1929年ニューヨークで生まれました。6歳で両親の故郷ドイツに移住し、第2次世界大戦下を過ごすことになります。

戦争が終わって、グラフィックアートの厳しい訓練を4年間受けた後、23歳の誕生日を迎える直前に、ビジュアルアートの新しい世界的中心地となったニューヨークに戻るのです。そこで、グラフィックデザイナーの仕事をしているときに、絵本作家ビル・マーチン氏の依頼を受け、1967年刊行の『くまさんくまさんなにみてるの?』のイラストレーションを描き、これが実質のデビュー作となるのです。

『くまさんくまさんなにみてるの?』
ビル・マーチン 作
エリック・カール 絵
(偕成社)



この仕事がきっかけで、「自己発見の瞬間」を体感したカール氏は、内在する創造の喜びが目覚め、それは絵だけでなくストーリーにも溢れ出始めると言います²⁾。そして1968年、ついに「エリック・カール」初の創作絵本『1, 2, 3 どうぶつえんへ』を刊行する



『1, 2, 3 どうぶつえんへ
-かずのほん』
エリック・カール 作
(偕成社)

手にするときは！

エリック・カール展

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

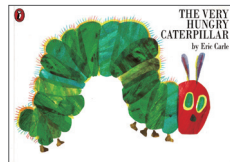
のです。すると、この絵本が1970年のボローニャ国際児童図書展でグラフィック大賞を受賞したのです。

38歳でデビューしたカール氏は、絵本作家としてのスタートを疾風の如くダッシュしたかと思うと、半世紀もの間、世界中を全力疾走して、老若男女を虜にするアートな絵本を世界に送り出したのです。

大人気『はらぺこあおむし』誕生の裏で

1967年1968年の2冊の絵本に続けて1969年に刊行した3作目は、世界的に有名な『The Very Hungry Caterpillar』です。日本語翻訳版『はらぺこあおむし』は1976年に偕成社より発行されて以来、2021年現在の発行部数が430万部を超えています³⁾。

『THE VERY HUNGRY CATERPILLAR』
by Eric Carle
(PUFFIN)



また、トーハンが発表しているミリオンセララーンキングでは、常時第3位に位置し、なおも1997年に刊行されたボードブックは、2021年で285万部と破竹の勢いで売れ続けているのです。両タイプを合計すると715万部以上に上り、国内の翻訳絵本でもっとも売れている絵本というわけです⁴⁾。

1969年にアメリカで出版された初版本の奥付に、「Printed in Japan」と印刷されているという秘話が、カール氏の訃報とともに大きく報じられ、広く知られることになりました³⁾。

絵本を創作する際、カール氏がこだわった色彩と形、そして人の目を引き付ける「驚き(surprise)」を真っ向から仕掛けた『はらぺこあおむし』でしたが、当時のアメリカでは穴あきや、ページの幅がさまざ

まなこの本を印刷・製本してくれる会社が見つからなかったのです。そこで力になったのが日本の児童書出版社・偕成社で、当時の専務が立役者となって日本の印刷・製本会社を紹介し、日本で誕生しているのです³⁾。

現在、世界70以上の言語に翻訳され、累計発行部数が5500万部を超えるBig Caterpillarに成長し、この先も勢い止まらない成長を見せてくれるでしょう。

着眼点はこんなところに！

カール氏は早くから、古代から伝わる寓話に合わせた創作活動を行ってきました。それは、動物の世界への関心ともうひとつ、単純で説明的な寓話は最大限にはっきりして、すぐに理解できるような絵や記号を好むことが、戦後のグラフィックアートの国際的なスタイルと共通していることに着眼したのです⁵⁾。

これを示すように、1976年には『エリック・カールのイソップものがたり』と題したカール氏流の再話絵本を出版しています。

『エリック・カールの
イソップものがたり』
エリック・カール 再話・絵
木坂 涼 訳
(偕成社)



イソップの『アリとキリギリス』や『ウサギとカメ』などに示された教訓が自明のことと照らして、お腹をすかせたアオムシや気難しいテントウムシ、いそがしいクモ、孤独なホタル、不器用なコメツキムシたちは、「自分たちの自己発見の瞬間へ向かって、うごめいたり飛んで行ったりしている」と、ア



メロカ児童文学界で評論・歴史研究の第一人者であるレナード・S. マーカス氏が解説しています⁵⁾。

多数あるエリック・カール作品の中から、「希望」がテーマの『はらぺこあおむし』を筆頭に、「生きていく上でなくてはならない大事な要素」⁶⁾をテーマとした“虫”が主人公の作品を鑑賞することにしましょう。

愛する虫に思いを託して

『はらぺこあおむし』の驚きが、丸い穴の仕掛けなら、こちら『くもさん おへんじ どうしたの』(The Very Busy Spider)は、クモの糸が特殊な塗料で盛り上げられている surprise があります。

『くもさん おへんじ どうしたの』
エリック・カール 作
もりひさし 訳
(偕成社)



クモの巣ができあがっていく過程は、クモの生態を取り扱った科学絵本で、しかし、お話はカール氏らしい、たっぷりのユーモアで仕上がっています。“クモの巣”作りに精を出すクモさんは、農場の動物たちのお誘いに返事もしません。『アリとキリギリス』を彷彿とするようなお話です。

「くもさん おへんじ どうしたの」との問いかけは、大人からみたら子どもの名前を差し替えて口にしてしまいそうですが、この絵本のテーマは「働く」ことです。特別に浮き上がらせたクモの巣の線は、働き者の主人公の冒険物語に、手で触って理解することへのつながりを施しているのです⁶⁾。

先のマーカス氏は、「仲間づきあいとか、満足のいく仕事をする事の大切さなど、基本的な人間の関心事について述べながらも、もっとも小さな昆虫から、命を与えてくれる太陽にいたるまで、自然それ自体への純粋な関心をも表現している」とエリック・カール作品を評していますが、「くもさん」はそのものでしょう⁵⁾。

エリック・カールが奏でる虫の四重奏

コオロギの成長とともに、生きものたちの自然とのつながりが感じられる『だんまりこおろぎ』(The Very Quiet Cricket)は、お返事をしたいのに、まだ幼いがゆえに羽をこすっても、うまく音を出せないもどかしさが描かれています。しかしある日、大きな蛾が音もなく飛んでいく姿を見て、黙っていてもいい自分を発見するのです。

いつしか成長を遂げたコオロギが、どうしても音を鳴らしたい思いにかられたとき、本物の音が鳴り響くのです。「愛」がテーマの本作での驚きは、サブタイトルが示す通り、「虫の音がきこえる本」です。アオムシのかじる穴、浮き上がるクモの糸と続き、それぞれの虫の生態をとらえて、コオロギは絵本から鈴の音を響かせるのです。

カール氏は、この『だんまりこおろぎ』の裏表紙折返しカバーでこんなメッセージを発信しています。

『だんまり こおろぎ』
エリック・カール 作
くどうなおこ 訳
(偕成社)



「絵本『はらぺこあおむし』を世に送り出したとき、私は虫たちのすばらしい四部作(カルテット)を作ろうと思いました。そして、四部作が26年がかりででそろいました⁷⁾。遊び心の裏にある作家魂です。

遊び心はタイトルにも

『はらぺこあおむし』から26年後の1995年に出版した虫の四重奏4作目は、『さびしがりやのほたる』(The Very Lonely Firefly)です。「仲間」をテーマとして、ひとりぼっちのホタルがアイデンティティである“光”を手掛かりに、仲間を探してまわるお話です。

原題を併記するとお気づきのことと思いますが、四部作すべてに「Very」がついているのです。虫の

『さびしがりのほたる』
エリック・カール 作
もりひさし 訳
(偕成社)



四部作を「Very シリーズ」といい、どの絵本も文字は少なく、穴が開いていたり、音が出たり、ホタルの生態では光るなど、おもちゃのような工夫がなされています。

あえて「少しおもちゃであり、少し本」を意識して、学校とその前の「架け橋」になるような本を作りたいというカール氏の思いです。その背景には自身の幼少期の体験が影響しています。それは、規律を重んじるドイツの小学校で一日おきにおしおきを受け、学校が大嫌いだっただ辛い体験と、戦争で暗い灰色に塗りつぶされた成長期の色のない体験によるものです⁶⁾。

戦争が終わって美術学校で表現主義の絵を見て、色のすばらしさを発見することになります。そして生まれた特徴的な色彩豊かなコラージュは、見る人の感性に訴え、ウキウキしたりワクワクしたり、ホッとしたり希望が湧いたり、心身を豊かにしてくれるのです。

エリック・カール氏の願いは永遠に…

虫の四部作は共通して、何らかの失敗や冒険を乗り越えてハッピーエンドになる簡潔なストーリーで、少し大きな子どもたちには、自立と成長の厳しさと喜びに通じるものがあります。また、カール氏が、『くまさんくまさん なにみてるの?』のイラストの仕事をしたことで自己発見できたように、自身のすべての作品は、「自己発見」がテーマとなっているのです⁵⁾。

虫の四重奏のはずがカールさん、1999年に『The Very Clumsy Click Beetle』^{カルテット}を出版したのです。日本では『パッチン! とんでコメツキくん』(偕成社)の邦

題で2001年に刊行されました。読者を裏切る遊び心も忘れてはなりません。虫の五重奏(クインテット)になりました。努力挑戦物語のコメツキくんの仕掛けは、失敗を繰り返した後、成功する喜びと「パッチン!」と跳ねる音が同時にやってくるのです。

カール氏のコラージュは巧みで、言葉はお話の一部分しか物語っていません。それは、年のいかない幼い子どもたちが、もっと直接的に理解できるような素晴らしさをもった絵が、特別な役割を果たしているからです。マーカス氏はそれを「読書を始める前の子どもたちが心躍らせ、もう自分ひとりで読めるということを発見する第二の物語言語としての役割」と示し、「カールは、彼の読者たちに、一歩先んじて味わう機会を与え、彼の本はすべての面で、子どもたちの自立心の芽生えを支えるように目指している」と述べています⁵⁾。

エリック・カール作品が歯科医院に飾ってあると、ギャラリーのように明るく楽しくなります。子どもだけでなく、大人の気分をも高揚させるパワーがあるのです。『はらぺこあおむし』をはじめとするエリック・カール作品は、この先50年後100年後の子どもたちにも愛され続けることでしょう。



文献

- 1) 日本経済新聞社: 人気絵本の知財売却 「はらぺこあおむし」作者, 日本経済新聞 HP <https://www.nikkei.com> 2019/11/7
- 2) The Eric Carle Museum of Picture Book Art 協力: エリック・カール絵本の世界-いろのまほうつかい, ブックグローブ社, 東京, pp.76-97, 2004.
- 3) 朝日新聞社: 「はらぺこあおむし」実は日本で誕生, 朝日新聞, p.25, 2021年5月28日朝刊
- 4) 株式会社トーハン: ミリオンぶっく 2021, トーハン, p.28, 2021.
- 5) レナード・S・マーカス: 色とコラージュの魔法使い エリック・カール, 絵本図書館-世界の絵本作家たち新装版, ブックグローブ社, pp.143-145, 2012.
- 6) エリック・カール: あふれる色が奏でる、自由でのびやかな世界, 世界でいちばん愛される絵本たち-人気絵本作家30人のインタビュー集, 白泉社, pp.25-28, 2000.
- 7) エリック・カール: だんまりこおろぎ, 偕成社, 1990.